

平成 20 年 3 月期 第 1 四半期決算についての補足説明

当社（東京都千代田区外神田 4 丁目 14 番 1 号、資本金 364 億円、社長：河野 正樹）の平成 20 年 3 月期 第 1 四半期の連結決算は、売上高 1,192 億円、営業利益 175 億円、経常利益 178 億円、四半期純利益 98 億円となりました。また、連結総資産は 3,811 億円、連結純資産は 1,475 億円、連結自己資本比率は 37.5%となりました。

前年同期比で、売上高は、製錬部門で主要メタル価格が上昇したこと、環境・リサイクル部門が堅調に推移していることにより 136 億円増収（+12.9%）の 1,192 億円となりました。

営業利益は、製錬部門では主要メタル価格の上昇により大幅に収益が伸びました。一方、環境・リサイクル部門、電子材料部門、金属加工部門では、設備補修に伴う処理量の減少やユーザーの在庫調整などにより減益となりましたが、全体では 61 億円増益（+53.9%）の 175 億円となりました。

経常利益は 55 億円増益（+45.0%）の 178 億円、第 1 四半期（当期）純利益は 12 億円増益（+14.6%）の 98 億円となりました。

財務面では、前年度末との比較で総資産が 288 億円増加し 3,811 億円となりました。これは、製錬部門でリサイクル原料対応型の新炉導入に伴い、鉱石原料を前倒しで購入したほか、工業炉での受注増加による工事仕掛の増加などにより棚卸資産が 204 億円増加し、また、事業拡大に向けた積極的な投資を実施していること、関係会社株式の追加取得や株式の時価評価により、固定資産が 112 億円増加したことによるものであります。

なお、有利子負債は、前年度末から 182 億円増加し、1,330 億円の残高となりました。

1. セグメント別

製錬部門では、前期比で自動車めっき鋼板向けに亜鉛が販売量を伸ばしたほか、白金族も販売量を伸ばしました。銅は前期並みの販売量となりました。これらに加え、主要メタル価格が上昇したことにより売上高は 90 億円増収（+13.7%）の 747 億円となりました。

営業利益は、鉱石中の品位や価格の低下によりインジウムの収益が減少しましたが、亜鉛、白金族の販売量の増加に加え、高水準で推移した銅、亜鉛などメタル価格の追い風により前期比 65 億円増益（+115.9%）の 121 億円となりました。

環境・リサイクル部門では、廃棄物処理は堅調に推移し、また、土壌処理の受注増加、リサイクル原料の集荷も増加したことにより売上高は 22 億円増収（+12.8%）の 197 億円となりました。

営業利益は、廃棄物処理の一部の拠点で設備補修に伴い処理量が減少したことから収益も減少しましたが、土壌調査・処理ともに受注を増やしたことにより、全体では前期並みの 18 億円となりました。

電子材料部門では、携帯電話やパソコン向けにガリウムヒ素ウエハ、LEDが堅調に推移し、これらの原料となる高純度ガリウムも販売を伸ばしたほか、複写機向けにキャリア粉が販売量を伸ばしました。一方、PDP（プラズマディスプレイパネル）向け銀粉、フェライト粉、鉄粉がユーザーの在庫調整などにより販売が減少しました。これらの結果、売上高は前期比 9 億円増収（+6.6%）の 152 億円となりました。

営業利益は、銀粉、フェライト粉、鉄粉の販売量が減少したことにより、前期比 1 億円減益（ $\Delta 0.4\%$ ）の 17 億円となりました。

金属加工部門では、自動車用途が引続き好調で、銅合金板条、貴金属めっき、セラミックス基板ともに販売を伸ばしました。販売量の増加に加え、売上高はメタル価格の上昇により 22 億円増収 (+12.3%) の 198 億円となりました。

営業利益は、原料代の先入先出法による差益が昨年より減少し、また、設備増強による償却費の負担増もあって、前期比 4 億円減益 (△24.9%) の 12 億円となりました。

熱処理部門では、新たに連結対象に加えた(株)セムが業績に寄与し、また、工業炉の販売とメンテナンス工事ともに堅調に推移していますが、前年同期比では新炉の品種構成差、販売月のずれなどにより、売上高は前期比 2 億円の増収 (+4.6%) の 56 億円にとどまりました。

営業利益は、中京半田工場の設備増強により償却費が増加したこと、また、高採算の受託処理品目が構成比で減少したことなどが響き、前期比 3 億円減益 (△42.2%) の 4 億円となりました。

連結損益

単位：億円

	A	B	増減 (B - A)	
	2006 年度第 1 Q	2007 年度第 1 Q	金額	率
売上高	1,056	1,192	136	+12.9%
営業利益	114	175	61	+53.9%
経常利益	123	178	55	+45.0%
当期利益	85	98	12	+14.6%

セグメント別 損益状況

単位：億円

	2006 年度第 1 Q			2007 年度第 1 Q			増 減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
製 錬	657.0	56.3	56.7	747.1	121.5	123.9	90.1	65.2	67.2
環境・リサイクル	175.0	19.1	19.1	197.4	18.4	17.8	22.4	△0.7	△1.2
電 子 材 料	142.6	18.0	17.5	152.1	17.3	17.4	9.5	△0.8	△0.1
金 属 加 工	176.0	15.4	15.3	197.5	11.6	10.9	21.6	△3.8	△4.4
熱 処 理	53.6	7.2	6.8	56.0	4.2	4.3	2.5	△3.0	△2.5
消 去 ほ か	△148.2	△2.0	7.6	△158.2	2.4	3.9	△10.0	4.5	△3.7
合 計	1,056.0	113.9	122.9	1,192.0	175.3	178.2	136.0	61.4	55.3

2. 中間期、通期見通し

当第1四半期につきましては、当初想定した主要メタル価格及び為替相場に対し、メタル価格が高水準で推移していること、また、為替も円安傾向を続けたことから、主に製錬部門で当初予想を上回る業績となりました。

第2四半期においても実勢の主要メタル価格、為替相場を前提に業績の見直しを行なった結果、中間期の業績予想を以下のとおり修正いたします。

なお、特別損失として下期に予定していた非コア事業からの撤退による整理損失を、中間期に計上する見込みです。

【連結 中間業績予想】

単位：億円

連結決算	A	B	増減 (B-A)	
	前回5月14日予想	今回修正	金額	率
売上高	2,150	2,380	230	+10.7%
営業利益	240	310	70	+29.2%
経常利益	240	310	70	+29.2%
当期利益	130	140	10	+7.7%

セグメント別 損益状況

単位：億円

	前回5月14日予想			今回修正			増 減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
製 錬	1,220	126	122	1,490	200	195	270	74	73
環境・リサイクル	362	35	35	390	35	35	28	-	-
電 子 材 料	321	36	36	290	32	32	△31	△4	△4
金 属 加 工	374	21	20	390	23	22	16	2	2
熱 処 理	140	18	18	140	17	17	-	△1	△1
消 去 ほ か	△267	4	9	△320	3	9	△53	△1	-
合 計	2,150	240	240	2,380	310	310	230	70	70

【連結 通期業績予想】

通期の業績予想につきましては、実勢の主要メタル価格を勘案し、以下のとおり修正いたします。

単位：億円

連結決算	A	B	増減 (B-A)	
	前回5月14日予想	今回修正	金額	率
売上高	4,100	4,600	500	+12.2%
営業利益	410	510	100	+24.4%
経常利益	410	510	100	+24.4%
当期利益	200	260	60	+30.0%

セグメント別 損益状況

単位：億円

	前回5月14日予想			今回修正			増 減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
製 錬	2,130	150	145	2,660	250	245	530	100	100
環境・リサイクル	740	78	78	770	78	78	30	-	-
電子材料	630	75	73	630	75	73	-	-	-
金属加工	740	51	47	780	53	49	40	2	2
熱 処 理	310	45	45	310	45	45	-	-	-
消 去 ほ か	△450	11	22	△550	9	20	△100	△2	△2
合 計	4,100	410	410	4,600	510	510	500	100	100

なお、個別通期の業績予想については、前回予想どおり 売上高145億円、営業利益95億円、経常利益105億円、当期純利益75億円を予想しております。

今後とも、財務体質の改善、収益体質の強化をはかるとともに、業績予想の達成に向けて全力を尽くしていく所存であります。

《連絡先》 DOWA ホールディングス 経 理・財務部門 03-6847-1150 成田、菅原
 " 企 画・広報部門 03-6847-1106 富川、鎌倉

以 上